

# Senriyama

## 千里山建築会会報

第24号 2012年3月25日発行

### 千里山建築会

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35

関西大学環境都市工学部建築学科内

TEL : 06(6368)1121 (代表)

FAX : 06(6368)0093 (建築学科共通)

### Contents

会長からの挨拶

学内の話題 教室だより

新任の挨拶

在学生への講演会の開催

退職にあたって

懇親会の報告

事務局から

会計、事業報告

スプリングフェスティバル懇親会

開催のお知らせ

事務局からのお願い

編集後記

### 会長からの挨拶 // 13期 宮本昌彦

皆様、新たな年を迎えられ、いかがお過ごしでしょうか。昨年は3月に東日本大震災が大変な被害をもたらしました。本務の関係で、夏に仙台の大学生(宮城大・宮城教育大・仙台高専)と共同して、被災地の子供たちを元気づけるイベントをしましたが、保護者の方々から「学生とは思えない対応」「久しぶりに子供の笑顔を見た」など多くのご意見をいただきました。また、被災地の復興に役立てるための銭湯計画などからも声がかかっております。一方で、プレートが理論値を超えて大きく動き、仙台東部有料道路の海側は津波被害を大きく受け、七夕の時点でも大変な有り様でした。また、津波の被害に加え、福島原発による放射能被害も甚大なものでした。会員の皆様におかれましても、震災と関わりを持って一年を過ごされたことでしょうか。復興が都市から建築に至るにはまだしばらく時を要し、その後のご苦労は如何ばかりかと推察いたします。ご自愛いただき、長く復興に

尽くされますよう祈念いたします。



また、昨年は千里山建築会主催「建築業界で働くOBによる職種レクチャー」シリーズと題しまして在学生に向けての講演会を実施致しました。3回生、M1を中心に、学生参加者が40名程度ありました。(後に関連記事)さらに他の学年、主に1・2回生の学生に刺激を与えるべく、4月のスプリングフェスティバルで住宅産業への就職とスマートハウス化の事情を語り合う会を持つ企画を進めております。ご助力お願いいたします。

### 学内の話題

#### 教室だより // 建築学科教育主任 末包伸吾

2009年4月から伝統ある関西大学環境都市工学部建築学科教授に、神戸大学大学院工学研究科建築学専攻准教授から参りました末包伸吾(すえかね・しんご)です。専門は建築計画・設計です。若輩・浅学者ですが、なにとぞご指導のほど、よろしく願いいたします。

本会報へのご挨拶は初めてですが、私自身は、中学と高校時代を豊中市で過ごし実家が今も豊中市内にあることもあり、関西大学にはかねてから親しみを持っておりました。特に大学受験の際には、関西の私立大学

の最高峰である関関同立で伝統がある建築学科を有する大学といえば、関西大学がまずは念頭に浮かぶ存在でもありました。今回、このような機会をいただけたのも何かの縁を感じます。それ故、関西大学建築学科における伝統の継承と更なる発展のための一助をと思っております。と、このように書き連ねましたのも、皆様ご存じの昨今の建設業を取り巻く状況の厳しさとそれに伴う求人状況の厳しさの中、関西大学建築学科の伝統を築いてこられた諸先輩方の、その伝統の力を活かした、

なお一層のご協力を切にお願いしたいということに  
ございます。学生諸君は日々努力を積み重ねてくれて  
おりますので、なにとぞご高配のほどをよろしく  
お願い申し上げます。

さて学内の状況ですが、長らく本学建築学科をお  
支えいただいた馬場昌子先生が本年度をもって  
退職されます。まず、先生のこれまでの大学なら  
びに建築学科への多大なご貢献に謹んでお礼申  
上げます。本年4月には豊田政弘先生が、京都  
大学次世代開拓研究ユニットを経て助教に着任  
いただき、教育・研究に励んでいただいております。  
在外研究関係では、江川直樹先生が4月から  
7月まで調査に赴かれ、そして松田敏先生が10  
月から1年間の予定で出発されました。来年  
度は原直也先生の在外研究が予定されてお  
ります。松田先生、原先生の在外研究での一層  
のご研究の進展を祈念いたしております。

#### 新任の挨拶 // 豊田政弘



千里山建築会の皆様、はじめまして。新任の豊田と申  
します。2006年3月に京都大学工学研究科都市  
環境工学専攻にて学位を取得した後、株式会社  
国際電気通信基礎技術研究所での非常勤研究員、  
京都大学次世代開拓研究ユニットでの特定助教  
を経て、2011年4月1日付で建築環境工学第I  
研究室の助教に着任いたしました。専門は音環  
境工学で、特に遮音性能の予測と遮音構造の開  
発に力を入れております。1977年

#### 在学生に向けての講演会を開催しました // 13期 宮本昌彦

昨年は、在学生に向けての講演会を10月3日、  
関西大学千里山建築会主催「建築業界で働くOB  
による職種レクチャー」シリーズとして開催いた  
しました。



3回生、M1を主な対象者として、日本設計  
関西支社 副支社長 近宮健一氏(11期)に講  
師として登壇いただきました。学生参加者は  
40名程度で、学部生と院生の比率は同程度。  
講義は写真、グラフを交え100枚を超えるパ  
ワーポイント資料で工夫され、学生に理解し  
やすい内容でした。講義の構成は①設計業  
界について、②組織設計事務所について、  
③設計業界を目指すためにはの3部構成で  
した。

①設計業界については、建築業界の職種、  
実務の中での建築家の位置づけ、建築士・  
建築家・アーキテクトとは、建築設計事務  
所とは、建築設計事務所とゼネコン設計部、  
設計から竣工までの流れの6つの話題でお

ます。

また、昨年来議論を重ねて参りました建築  
学科の改正カリキュラムもいよいよ来年度か  
ら稼働いたします。導入教育とともに、3年  
次での演習の充実化を図るものである関西大  
学建築学科が築いてきた「強み」をより活か  
そうとするものでもあります。その評価は今  
後の点検等を待ちますが、必ずや他大学に  
ない個性的な成果をもたらしてくれるものと  
確信をいたしております。

以上、皆様には学科の現状や今後の方向に  
関してのご報告とともに、あるいはそれ以上  
にお願いを申し上げますこととなりました。関  
西大学建築学科を母艦に、卒業生の方々から  
の、現役の、そしてこれからの学生へのより  
一層のご支持をお願いするとともに、皆様  
のより一層のご健勝を心よりお祈りし小職  
からの学科だよりとさせていただきます。

吹田市の生まれで、小中学生の頃は千里山  
キャンパス近辺に自転車でよく遊びに来て  
おりました。通りに並ぶお店は当時とすっ  
かり変わってしまいましたが、学生による  
活気あふれる雰囲気は現在でもまったく  
変わらないようです。着任からそろそろ1  
年が過ぎようとしておりますが、学生の  
印象として、素直でコミュニケーション  
能力の高い方が非常に多いと感じて  
おります。同研究室の河井康人先生、  
宮崎ひろ志先生とともに、日々楽しく  
業務に励んでおります。今後とも、  
建築学科の皆様にご協力をいただき  
つつ、教育と研究に全力を尽くす所  
存でございますので、千里山建築会  
の皆様からもご指導とご鞭撻を賜  
りますよう何卒よろしくお願い申  
上げます。

話いただき、自社でのご自身の作品「糸満市庁舎」  
を実例にして構造、環境部署とも共同して設計・  
監理を進めて行く様子をわかりやすく説明  
頂きました。

②組織設計事務所については、代表的な組織  
設計事務所と比較、組織設計事務所の業務  
範囲、設計チー



ムの構成例、設計業界の状況、日本設計の  
近作、OB紹介、組織設計事務所やゼネ  
コン設計部の仕事と、戦略をもって経営  
に関わりつつ、対応する仕事の状況や、  
他の組織事務所との社員数比較から  
売上比較など貴重なデータを多く示  
して頂きました。

③設計業界を目指すためには、では、  
自主的に学ぶ、設計業界での実体験、  
スキルアップ、設計課題・卒業設計に  
命をかける、アイデアコンペに参加、  
建築業界の

#### 退職にあたって // 馬場 昌子



私が関西大学に就職したのは建築学科  
創設4年目でした。だから、関西大学  
建築学科の一期生の皆さん方から  
現在に至る学生さん(恐らく4000  
人くらい)を知っていることになり  
ます。同年、荒木兵一郎先生、浅  
野幸一郎先生も着任なさいました。  
ほぼ、建築学科のフルスタッフが  
そろった年でもありました。

就職したころは、ジーンズがはやり  
始めておりました。もともとの作業  
着としてのイメージも強く、ホテル  
などでは、ジーンズ姿では丁重に  
追い出されたなどということを知  
りました。キャンパスのファッション  
も思い返してみれば、結構移り  
変わりがあつたもので、ボディ  
コンが流行った時期には、妙にな  
まめかしい女の学生さんたちが  
目立ったものです。この5-6年  
目立つのがローウエストの男の  
学生さんたちです。今、研究室の  
前の廊下には、しゃがんでお尻の  
割れ目まで覗かせる格好で作業  
をしている学生さんがいます。10  
年くらいの単位で眺めると、関大  
キャンパスの情景も随分変化して  
います。

私が就職したころが、ちょうど我が  
国が高齢化社会に突入したころで、  
高齢者の子供との同居率が下がり  
始め、全国平均で8割を切った  
ころでもありました。今現在が4割  
ぐらいです。当時の「家族関係学」  
では、近代化が進むと核家族化も  
進み、高齢者のみ世帯が増大す  
るということは、自明の理でした。  
が、世間では親子同居の意識が  
根強く、親世帯と子世帯は自立  
した別世帯であるなどと発言し  
ようものなら、発言の場にも  
よりますが、睨まれたりした  
ものです。とあるシンポジウム  
で、司会役の民放のアナウンサー  
が子供との同居を強調されたの  
には参った思い出があります。  
ところが、今や、介護保険とい  
う社会制度で高齢者の介護を受  
け持つという時代です。

社会は確実に変化しています。その  
変化を合理的に見通すことは、  
結構生きていく上で重要なこと  
だと思えるし、この何十年間か  
の関西大学での研究生活を振り返

状況、就職活動の流れ、自己PRの  
重要性と、ご自身の学生時代の  
勉強方法、就職活動の話をお  
交え、採用されるための自己PR  
書類の作成方法に至るまで懇  
切丁寧にお話をいただきました。

この成功事例をもとに、さらに  
他の学年、主に1・2回生の  
学生に刺激を与えるべく、4  
月のスプリングフェスティバル  
で住宅産業界への就職とスマ  
ートハウス化の事情を語り  
合う会を持ちます。ご助力  
をお願いいたします。

でも、少なくとも、世間に  
実体化する10年は先行した  
研究テーマをとらえることが  
出来たかと思っています。ぐん  
と偉い先生がたった10年先  
しか読めなかったのか」と  
嘆かれたというお話を伺った  
事がありますが、私の能力  
では、10年先を読むのが  
せいぜいで、外すことなく  
テーマ設定ができてきた  
ことにホッとしています。

高齢者をキーワードとする  
研究の端緒を作ったのが、  
荒木兵一郎先生です。住宅  
公団(現UR)がペア住宅  
という親子隣居タイプの  
集合住宅を作り、その評  
価をするという委託研究  
へのお誘いでした。その  
後関西初のシルバーハウ  
ジングプロジェクト(神戸  
・シルバーハイツ菊水)  
の企画レポートを作成  
する仕事や、高齢者住宅  
財団が創設され、勤労者  
向けの比較的価格が  
安い有料老人ホームを  
供給しようというも  
ろみでシニアハウス  
構想が打ち出され  
ました。その関西圏  
での需要調査の  
委託も受けました。  
大阪府住宅改  
造助成事業実施  
のためのモデル  
事業や、実施時  
の冊子作りをお  
引き受けする  
など、極めて  
実践的な研究  
活動に従事  
することが  
できました。  
大阪府営住宅  
におけるコレ  
クティブ住宅  
の可能性に  
関する研究は、  
時期尚早  
であったの  
か、発展形  
の「ふれあい  
喫茶」として  
実体化した  
にとどまり  
ました。住居  
改善にかか  
わる研究  
では、福祉  
や医療・保  
健系の研究  
者や実務家  
との実践  
的研究や  
実践活動  
に発展し、  
「NPO福祉  
医療建築  
の連携による  
住居改善  
研究会」と  
して、この  
20年ばかり  
の間、結構  
忙しかか  
わって  
おります。  
某市の福祉  
のまちづくり  
条例にかか  
わるマップ  
作りや、交  
通バリアフ  
リー法に基  
づく基本計  
画の作成、  
ケア連携  
型バリアフ  
リー改修  
助成という  
国のモデル  
事業など  
です。これ  
からは研究  
ではなく  
実践活動  
で世の中  
にかかわ  
っていき  
たいと思  
っています。  
今しばらく  
は、多少  
体力も残  
っている  
と思いま  
すので。

関西大学建築学科卒業の  
皆さん方、町であつたら  
お声掛け  
ください。  
覚えてい  
ないかも  
しれませ  
んの、そ  
の節は、  
何年ころ  
の卒業だ  
とお教え  
ください。

皆さん方  
のこれから  
のますます  
のご活躍  
を願って  
おります。

2010年4月3日、恒例のスプリングフェスティバル・千里山建築会懇親会を建築学科会議室にて催しました。参加は16名と、少々さびしかったです。2期から35期まで、幅広い年代の卒業生が集まりました。話題提供のため、フィンランドの大学施設のスライドショーを行い、歓談のひとつときを持ちました。



## 事務局から

### 会計、事業報告

#### 平成22年度会計報告 (平成22年4月1日～平成23年3月31日)

収入の部		支出の部	
繰越金	¥1,674,030	総会・懇親会費	¥509,675
総会会費	¥1,299,840	名簿印刷費	¥450,100
会員会費		その他印刷費	¥10,600
銀行利息	¥67	通信費	¥261,578
郵便局利息	¥52,464	会議費	¥35,727
新規会員入会費	¥97,000	卒業記念写真代	¥79,000
合計	¥3,123,401	謝金	¥15,000
繰越金明細		繰越金	¥1,761,721
郵便普通預金	¥1,393,411	合計	¥3,123,401
りそな普通預金	¥333,363		
現金	¥29,947		
合計	¥1,761,721		

### 事務局からのお願い

千里山建築会では学内サーバーにホームページを設けています。イベントのお知らせや会報のカラー版なども掲載しておりますのでぜひご覧下さい。

<http://www.arch.kansai-u.ac.jp/senri2003/index.htm>

同期やゼミで同窓会を開催されたときには、写真などを添えてその時の様子などをお知らせください。会報にどしどし掲載していきたいと思えます。

住所や勤務先に変更のあった方は、ぜひ新住所・連絡先を千里山建築会までお知らせください。

Facebook

#### 平成22年度事業報告 (平成22年4月1日～平成23年3月31日)

平成22年度に実施した主な事業は次の通りです。

平成22年

4月17日 第1回幹事会開催

4月29日 総会・懇親会開催

5月14日 第2回幹事会開催

12月4日 第3回幹事会開催

平成23年

1月8日 第4回幹事会開催

3月19日 卒業式にて新会員勧誘、卒業写真撮影

3月25日 会報第23号発行、会費納入者に発送

### 編集後記

- ・ 毎年恒例になってしまっている感がありますが、今年も発行が大幅に遅れてしまいご迷惑をおかけしました。
- ・ 今年新しい企画として在校生へ向けてのOBによる講演会を行いました。学生はあまり集まりませんでした。が今後も学生の集まる時間帯などを考えて実施していきたいと思っています。
- ・ 去年の八尾先生に続き今年馬場先生が定年退職されました。建築学科も創設50年になろうとしているわけで、先生方の世代交代も致し方ないところではあると思いますが一抹の寂しさを感じざるを得ません。